

# わたしたち日本 IDDM ネットワークの 2025年『治らない』から

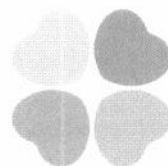
## MISSION

# 『治る』へ



「治らない」から「治る」へ

子どもたちの手には、  
注射器でなく、血糖測定器でなく、  
夢と希望をにぎらせた  
その実現のために、  
皆さんの“参加”をお願いします。



日本 IDDM ネットワーク通信 2013 年 1 月号

## 新年のごあいさつ

理事長 井上 龍夫

新年明けましておめでとうございます。年の初めに当たって昨年の活動を振り返り、また今年にける私たちの期待感と思いついて述べてみたいと思います。

2012年は私たちの組織運営に直接関わる大きな進展がありました。それは「認定 NPO 法人」となったことです。このひとつレベルの高い法人格により寄付していただく方々には大きな税制上のメリット（寄付額の約 40%に相当する税額の還付など）が得られることになりました。この効果でしょうか、昨年は 1 型糖尿病研究基金への寄付が確実に増加してまいりました。この認定 NPO 法人に至った陰にはこの組織の基盤を支えてきた事務局、特に岩永事務局長の地道な努力があったことをお伝えしたいと思います。

昨年は活動内容としても次の発展段階に向かえる展望が見えてきた年のように思います。最も大きなイベントは前年の東日本大震災で一年の延期を余儀なくされた全国シンポジウムを開催したことです。このシンポジウムは 1 年の延期を経たことで、より多くの支援者や仲間からの協力もいただくことができ、期待以上の大成功を収められ

たと思います。あらためて関わっていただいた多くの方々やボランティアの方にこの場を借りてお礼を申し上げます。シンポジウムでは私たちの「1 型糖尿病を治る病気にする」というゴールに対して「2025 年」という明確な時期の目標を掲げ、その実現にける私たちの強い思いを示しました。その実現を裏付けるように、当日ご講演いただいた多くの講師の方々のお話しの中にその可能性を明確に見いさせたように思います。

もうひとつの大きな活動は、全日本社会貢献団体機構(AJOSC)様の助成を得て、米国の 1 型糖尿病研究財団(JDRF)への訪問・調査を実施できたことです。ご存知の方も多いと思いますが、JDRFは約 40 年前に設立されたアメリカの 1 型糖尿病研究助成団体ですが、現在、世界でも最大級の活動規模を誇る患者団体です。年間に 100 億円以上の資金を調達し、世界中の 1 型糖尿病関連の研究を支援しています。しかし 40 年前にたった 2 家族で活動を開始した最初のチャリティパーティでは 1 ペニー集められるかが心配だったということです。彼らは研究支援以外にも全米各地の支部を通じて、強力な患者支援活動を進めています。また、行政や企業との連携など大規模な活動を行っています。詳しくは昨年発行した「1 型糖尿病 [IDDM] レポート 2012」

(日本 IDDM ネットワークの WEB からダウンロードできます)で紹介していますのでそちらをご覧ください。

さらに、私たちの「救う」、そして「つなぐ」活動の一環として、これまで 1 型糖尿病に関連した情報提供誌「1 型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル」の Part 1 から Part 4 までを発行してきましたが、その Part 5「患者と家族の体験編」を発行することができました。およそ 250 人もの患者・家族の体験が凝縮された貴重な体験集として、今後多くの患者・家族を救える重要なツールなると信じています。また今年の 3 月にはその Part 3 の別冊として「一東日本大震災編 - 1 型糖尿病 [IDDM] 患者の 3.11」(仮称)を発行予定です。私たちの組織は阪神・淡路大震災の年にその災害経験もベースにして結成されました。そしてその体験をもとに平時の心構えや準備の重要性を伝えるために Part 3 を作成しましたが、今回の大規模な震災、津波災害を経験し、さらに今後に残して伝えるべきことがあることを痛切に感じました。それを整理して後世に伝えることは私たちの使命だと思っています。

それ以外にも売り上げの一部が「1 型糖尿病研究基金」に寄付される自動販売機の設置が新しいメンバーの加入により大幅に拡大され、昨年だけで 10 台以上を設置することができまし

た。このような新しい動きとともに、従来からのセミナーや個別のカウンセリング、行政への様々な要望活動(厚生労働省への 20歳以降の患者に対する経済的な支援等)などの活動は変わらずに継続してまいりました。

そして、1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する 100人委員会の一人でもある山中伸弥先生のノーベル賞受賞という国民全体が喜びと期待感に包まれたニュースも、私たちににとっては 2025年の「治る」への光明にもつながるうれしい出来事だったと思います。

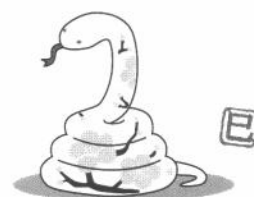
今年 2013年は、昨年までに踏み出した歩みを大きく前進させなければならぬ年です。先に述べましたように私たちがお手本としている米国の JDRFの活動を学ぶ中で、患者支援、研究支援、そして資金調達の様々な方法を知ることが出来ました。これらのごことをこの日本でひとつずつチャレンジしていきたいと思ひます。患者・家

族の支援、すなわち「救う」では、発症直後の最もつらい時期をどのようにサポートしていくかについてさらに考えたいと思ひます。1型糖尿病研究基金の運営についても JDRFを参考にしながら研究助成の対象分野とその優先性を再検討すべきと思ひております。そして何より、その財源をどのように効果的に確保するか、その具体的なチャレンジが今年の課題です。

昨年3月には東京でシンポジウムを行いました。今年は大阪で開催します。今回は根治に向けた研究・開発を行っていただいている研究者の方々と患者・家族との直接的な交流の機会を提供したいと思ひています。そのあたらしい方法としては「サイエンスカフェ」方式と名付けたスタイルを企画しています。それは比較的少人数のグループで研究者を患者・家族が囲み、直接分かりやすい説明を受けたいうで、自由に質問し、相互に期待感や想いを伝え合う場にしたいと思ひていま

す。この企画は患者・家族と研究者がより距離を縮め、その存在を身近に感ずること、それが結果的に研究推進の効果につながられることを期待するものです。研究資金ではなくソフト的な研究推進の効果とでも言えましようか。

私たちはまだまだ脆弱な組織・運営体制であることは否めませんが、それでもひとつずつ課題を解決し、新しい試みに挑戦しながら進めてまいります。そして最後は「2025年にみんなで成功を祝う」ことに向けて着実に前進してまいります。そのためにも本年も多くのみなさまのご支援とご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



北歐初のインスリン製剤  
インスリンレオ (1923)



世界初の中間型  
インフエン(NPH)  
インスリン (1946)



世界初のインスリンペン型  
注入器ノボペン® (1985)

novo nordisk  
**90**  
CHANGING LIVES FOR 90 YEARS

## 患者さんと インスリンとともに 90年

ノボ ノルディスクは 1923 年、インスリンを必要とする人々のためにデンマークで設立されました。

私たちは、高品質の製品とサービスを提供することで糖尿病治療に貢献し、また、患者さんにとって最大の願ひである糖尿病の治療に向けても最善を尽くしています。

ノボ ノルディスクの歴史は、インスリン製剤の進化の歴史です。インスリンとともに歩んで 90 年。イノベーションはこれからも続きます。

### ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル  
電話(03)6266-1000(代表) FAX(03)6266-1800  
www.novonordisk.co.jp



# 私の糖尿病根治計画 - 2025年に向けて -

国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザー 松本 慎一

糖尿病は、インスリンの絶対的相対的不足によって起こる病気です。原因が分かっているので、いくつかの解決方法が考えられます。解決方法の中で、私が一番確実に早く実現できると考え日々の研究しているβ細胞補充療法について説明します。

1型糖尿病は、自分の免疫細胞が間違えて自分のインスリン分泌細胞(β細胞)を攻撃してしまうことで起こり、通常は、インスリン分泌が絶対的に不足します。

1型糖尿病を根治するには、β細胞を補充し、拒絶反応や自己免疫による攻撃から補充したβ細胞を守ることで達成します。β細胞は膵臓の中にある膵島にあります。つまり、膵島を移植することでβ細胞を補う訳です。

現在臨床で行われている、同種膵島移植は、脳死の臓器提供者の膵臓から膵島を分離して、1型糖尿病患者さんに移植します。移植を受ける患者さんは、拒絶反応や自己免疫の攻撃を防ぐために、免疫抑制剤を内服します。この同種膵島移植は、近年目覚ましく成績が向上し、移植後5年経ってもおよそ半数の患者さんがインスリン注射不要の生活を続けられるまでに至りました。この膵島移植の成績を地道に改善することがStep1です。

同種膵島移植の根本的な課題は、膵臓を脳死の臓器提供者に頼っていることです。特に日本では、年間数十例しか脳死の臓器提供者は現れません。ヒトの

臓器に頼らない膵島移植が1型糖尿病根治には必要です。そこで、注目されたのが南極に近いところに住んでいる病原体をほとんど持たないクリーンなブタの膵臓を用いたバイオ人工膵島移植です。このバイオ人工膵島の画期的なところは、ブタの膵島を免疫隔離膜という特殊な膜で包んでしまうことです。この膜は、ブドウ糖やインスリンは通しますが、拒絶反応を起こす細胞や抗体は通しません。このため、免疫抑制剤の内服なしで膵島移植を行うことが出来ます。この方法は、すでにニュージーランドで臨床対応が始まっています。これがStep2の段階です。バイオ人工膵島は、研究を行い改善するべき余地があり、この改善されたものを商品化することで1型糖尿病の根治方法が確立します。これがStep3です。

2型糖尿病は、日本人の場合は、

もともとインスリンを分泌する量が少ないことに加えて、加齢や体重増加などインスリンが効き難いことが重なり発症します。まずは、肥満などのない2型糖尿病患者さんにバイオ人工膵島を移植することで、2型糖尿病を治します。これがStep4です。そして、最後にインスリン抵抗性のある患者さんに対して、まず、インスリン抵抗性をなくす治療を行い、その後バイオ人工膵島を移植することで、多くの2型糖尿病も治るようになると考えています。この段階がStep5です。

If you can imagine it, you can achieve it.

If you can dream it, you can become it.

みんなで、成功を想像し、みんなで夢を実現しましょう！

## 松本慎一の糖尿病根治計画

基本コンセプト: 1型糖尿病はインスリン産生細胞の自己免疫による機能廃絶である。  
→インスリン分泌細胞を補充し、自己免疫を防ぐとこの病気は治る。(1型糖尿病の根治術の確立)  
2型糖尿病は、インスリン分泌不全が基本であり、インスリン抵抗性が時に併発する。  
→インスリン分泌不全のみの患者は、インスリン補充療法で治る。  
→インスリンの抵抗性は主に肥満が原因であり肥満対策で大半が治る。(2型糖尿病の根治術の確立)

### Steps

Step1: 1型糖尿病に対し同種膵島移植と免疫抑制剤の内服  
(カナダ、ヨーロッパで標準治療、日本は 国立国際医療研究センターで同種膵島移植の準備中)

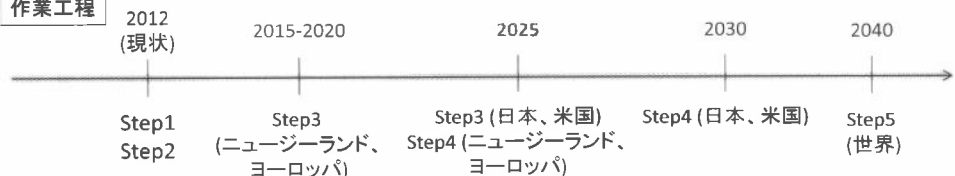
Step 2: 1型糖尿病に対し免疫隔離カプセルに入れたブタ膵島移植: バイオ膵島移植!  
ニュージーランドでDiatranz Otsuka Ltdが臨床試験中(カプセルが免疫攻撃を防ぐので免疫抑制剤不要)

Step 3: バイオ人工膵島の商品化 : 1型糖尿病の根治術の確立

Step 4: インスリン分泌が低下し、インスリン抵抗性のない2型糖尿病に対してバイオ人工膵島の適応

Step5: インスリン抵抗性の解除(抗肥満対策): 2型糖尿病の根治術確立

### 作業工程



# カバヤ食品株式会社インタビュー

## 「ジューCグルコース」開発秘話

昨年末にカバヤ食品株式会社の岡山本社にて、商品開発部研究室室長の岡本智志様に大村専務理事が「ジューCグルコース」開発秘話を伺いに行ってきました。以下にインタビューから得られた岡本様の熱い思いをご紹介します。



岡本室長とカバヤ食品本社にて

### ■製品開発のきっかけ

「ジューCグルコース」の開発はとある1本の電話がきっかけでした。たまたま私がとったその電話は、「カバヤ食品さんで、安くておいしい補食をつくれませんか？」という1型糖尿病患者の家族からのお願いの電話でした。そのお話の中で「糖尿病患者は、血糖値をコントロールするためにブドウ糖を摂取している」ということなども聞きました。もともと私は清涼菓子「ジューC」の開発担当者であり、以前はブドウ糖がメインだったジューCの配合を、味の改良のためにブドウ糖と砂糖を半々に変更した張本人でもありました。そのときから「ジューCにはブドウ糖がどのくらい入っていますか？」という問い合わせがあり、何でそんなことを聞くのだろう？と疑問に思っていたのですが、このときの電話で1型糖尿病について知り、ようやくその疑問が解決しました。そして、ジューCに含まれるブドウ糖の量を減らしてしまったことに何か後ろめたさも感じつつ、「何かできることはないだろうか」と、電話を下された方が所属する患者会に足を運び、お話を聞くことからスタートしました。患者会の皆さんとお会いし

て1型糖尿病について詳しく知り、病気を患う子どもたちの日常を聞くにつれ「私たちの会社は子ども達が支えてくれている。その子ども達のために何かしたい！」という思いが強まり、商品開発の大きな原動力となりました。きっかけとなった1本の電話を私がとっていなかったら、ジューCグルコースは世に出ていなかったかもしれませんね。

### ■製品開発で苦労された点

電話を受けた当時は、ジューCの担当ではない企画二課に所属しており、すぐに商品化というわけにはいきませんでした。そこで、まずは研究室のメンバーに試作品づくりを依頼し、それを患者会の皆さんに試してもらうことから始めました。何度かの改善・改良により反応も概ね好感触になってきたところで、将来の商品化をスムーズに行おうと思って工場試作をし、それを使って大々的にアンケートをお願いしたりしました。サマーキャンプなどでも使ってもらったりして、より現場の声を聞くこともできました。そして、いよいよ工場試作でつくった在庫が残りわずかになり、今後の提供をどうしようかと悩んでいるとき、なんとタイミング良く清涼菓子担当になったのです。新商品開発のためにトップ（幹部）向けにプレゼンをする機会があるのですが、その際に1型糖尿病患者さん向けのこういう商品もつくりたいとの思いを伝えました。正直、利益も見込めない商品なのでいい返事は期待していなかったのですが、「やったらいいんじゃないのか」との返事をもらいました。正直とても驚きましたが、チャンスが巡ってきた！とすぐに商品化に向けて急ピッチで取り掛かりました。（笑）



### ■この製品にかける思い

学校での利用を想定し、お菓子を食べていると思われないよう、パッケージは商品名の『ジューC』よりも原材料名の「グルコース」という文字を強調したデザインに、中身（味・香り）はほんのりレモン味に仕上げ、香りを抑えているけれどもおいしく食べられるように工夫しました。本当は容器なども変えたいという思いもありましたが、そこはコストの問題を解決するためにジューCと同じものになっています。

1型糖尿病患者・家族の皆さんに出会うようになり、患者さんはインスリン注射を打っているだけで、コントロールさえできれば普通の人と何ら変わらないことを感じています。そのため、病気だから薬的なものをどうとかこうとかという考え方がおかしいのだとも思うようになりました。製薬メーカーさんだと、病気だから薬をという感覚で製作されていた可能性があるところを、食品メーカーとして味付けなどにもこだわられたのは良かったと思っています。

### ■全国の患者・家族へのメッセージ

最近、皆さんが喜んでくれているということがいろんな場面で伝わってきます。それは本当に私にとって1番嬉しいことです。皆さんの役に立てていると実感できることが、やって良かった！頑張ってた！という思いにつながります。今後、もっともっと必要とされている人のところに届いて、多くの人が喜んでくれるといいなと思います。また最近では、そういった活動にいろんな方がご協力くださっていることも本当に嬉しいです。

岡本様は、「今はもう賞味期限は切れているんですけどね（笑）」と、完成が本当に嬉しくて、商品化した最初の「ジューCグルコース」1本と掲載された新聞記事を今でも机の引き出しにしまっているという話をしてくださりました。完成までには

目に見えないところでたくさんの苦勞や試練があったと思うのですが、それだけの思い入れを持って製作して頂けたことを患者の一人として本当に嬉しく思いますし、感謝です。今は一人でも多くの患者さんの手に渡り、低血糖対策はもちろん、学校や職場での補食を摂ることへの不安が少しでも和らぐことを期待しています。

■野津社長さまが100人委員に就任

最後のご紹介となつてしまいましたが、この度、カバヤ食品株式会社代表取締役社長の野津喬様が、1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員に就任してください、私た



ち日本IDDMネットワークの1型糖尿病根治に向けた活動に参加して下さるようになりました。「光栄であり、喜んでお受けする。」という言葉を受けており、本当に嬉しい2012年の締めくくりとなりました。

このように私たちは一人ではありません。応援して下さるたくさんの方々があります。同じ1型糖尿病を持ちながら様々な境遇で頑張っている仲間もたくさんいます。是非一人で悩まずに、皆で助け合い、励ましあいながら、一歩一歩進んでいきましょう。ゴールに「根治」があることを信じて、患者自身が声を大にして、家族をはじめとしたサポーターに支えられながら、皆で力を合わせて実り多き2013年にしていきましょう。

専務理事 大村 詠一

**abaya**  
GLUCOSE  
ジュ-Ｃ  
GLUCOSE  
**グルコース**  
糖分補給に ほんのレモン味 (清涼菓子)

グルコース(ブドウ糖)が主成分。糖分の補食に最適!  
おいしく摂取! 携帯に便利! 香りひかえめ ほんのレモン味

1粒でブドウ糖 1.5g  
L-アスパラギン酸 0.05mg

こんなときジュ-Ｃグルコース  
① 運動時 ② 通勤時 ③ 勉強時 ④ 旅行時 ⑤ 出張時 ⑥ 宴会時 ⑦ 高齢時 ⑧ 妊婦時 ⑨ 授乳時 ⑩ 産後時 ⑪ 病後時 ⑫ 手術後時 ⑬ 検診時 ⑭ 入院時 ⑮ 退院時 ⑯ 帰省時 ⑰ 帰郷時 ⑱ 帰国時 ⑲ 帰宅時 ⑳ 帰社時 ㉑ 帰校時 ㉒ 帰塾時 ㉓ 帰園時 ㉔ 帰寮時 ㉕ 帰宿時 ㉖ 帰寮時 ㉗ 帰宿時 ㉘ 帰寮時 ㉙ 帰宿時 ㉚ 帰寮時 ㉛ 帰宿時 ㉜ 帰寮時 ㉝ 帰宿時 ㉞ 帰寮時 ㉟ 帰宿時 ㊱ 帰寮時 ㊲ 帰宿時 ㊳ 帰寮時 ㊴ 帰宿時 ㊵ 帰寮時 ㊶ 帰宿時 ㊷ 帰寮時 ㊸ 帰宿時 ㊹ 帰寮時 ㊺ 帰宿時 ㊻ 帰寮時 ㊼ 帰宿時 ㊽ 帰寮時 ㊾ 帰宿時 ㊿ 帰寮時

ジュ-Ｃ グルコース  
小箱 15粒/1本  
中箱 40本セット 2,800円  
大箱 80本セット 4,000円  
税別

お求めは、カバヤホームページ・ネットショップ  
<http://www.kabaya.co.jp/netshop/index.html>

糖尿病保険の  
エクセルエイド5周年記念 想いのエッセイ

テーマ「糖尿病と保険」

エクセルエイド大賞受賞作品 かな 様(千葉県船橋市在)

私は、1歳で1型糖尿病を発症して、もう36年になる。私が1型糖尿と診断された当初は、お医者様さえもただの風邪と診断。母は大変な苦勞をした。皆が普通に入れる共済等の保険も、一切加入できず、1型糖尿病治療費助成金も18歳までは出るが、19歳になると打ち切りになる。母は、随分不安で大変だったろうと思う。このおかしな制度も、改正できたらと、患者団体も動いているが、進展は無し。

年頃の時には、「なんで、こんな病気になったの。もう嫌だ」と、母を何度も何度も責めた。沢山迷惑もかけてきた。小さい時には、保険に入れないのに、入院を繰り返してきた。自分だけが、病気と闘っていて、大変だと思っていた。今、この歳になって、本当に母の大変さが身にしみる。

私が結婚して、母からとても良い保険を見つけたよ。と、連絡を貰った。最初は、またいろいろ聞かれて、診査の時に断られるパターンだろうと、あきらめながらも、調べてみた。

あれっ、今までと違う。糖尿病患者の為の保険だ。と感じ、インターネットで、詳しく調べてみた。今でこそ、1型糖尿病でも入れる保険が出てきたが、それは本当にこの1~2年で、昔はどの保険も加入できなかった。母が昔親戚に、糖尿を持ったら、一生生涯気ローンだと言っていたのを思い出した。自分の子供を持った今あの時の母の気持ちを想うと、いろいろな想いで胸が痛くて切なくて仕方がない。そんな想いの中で、エクセルエイドの保険に出逢い加入した。その時私が、「あたしにぴったりの保険だよ。」と、言うも、母が、ほっと嬉しそうに笑っていたのを今でもはっきり覚えている。

そして、私は、今までに帝王切開と段発指の手術で、二度保険のお世話になった。エクセルエイドの保険は、私と家族にとって突然の手術や急な入院に安心して対応できる、心の杖である。本当にこの保険に入ってよかった。

そのほかの入賞作品はエクセルエイドHPでご覧いただけます。  
ご希望の方には「糖尿病と保険」想いのエッセイ集をお配りしています。

詳しくは **0120-307-133** または **エクセルエイドHP** まで! **エクセルエイド** 検索



エクセルエイド少額短期保険株式会社  
Excel Aid Small-Amount & Short-term Insurance Co., Ltd.

関東財務局長(少額短期保険)第3号  
〒108-0073 東京都港区三田1-3-35 三田SUNビル3階



## 2012年の振り返りと2013年に向けて

事務局長 岩永 幸三

### ○患者・家族会への助成金交付

富山の補食の会に交付しました。他の会員患者・家族会からの申請もまだまだお待ちしております。

### ○20歳以上の患者支援策実現に向けての政策提言

2012年11月28日に開催された厚生労働省の「小児慢性特定疾患児への支援の在り方に関する専門委員会」での意見表明のほか、井上理事長が中心となって国に対する働きかけを行いました。今年も引き続き国会議員や国に対し、ロビー活動を展開していきます。

### ○配偶者控除制度の存続に向けての政策提言

政府の税制抜本改革では廃止の方向で検討されていましたが、政権交代となりました。多額の医療費負担を抱える患者家族にはたいへん困りますので、この機会に存続に向けてロビー活動を継続します。

### ○介護職員によるインスリン注射が可能となるための政策提言

引き続き国会議員や国に対し、ロビー活動を展

開していきます。

### ○特別児童扶養手当の地域間格差是正

未だに「1型糖尿病は対象外」という行政窓口での対応があります。井上理事長が中心となって対応します。

### ○学校・幼稚園・保育園の先生向けに動画を作成

(株) キャリアブレイン様との協働で動画を製作し、WEBに掲載しています。説明用パンフレットもWEBに掲載しています。

### ○注射器、血糖測定器等を入れるキティちゃんポーチ等の配布

ロシュ・ダイアグノスティクス様とサンリオ様のご尽力で製作された注射器や血糖測定器等が収納できるポーチをプレゼントしています。詳しくはWEBをご覧ください。

### ○1型糖尿病[IDDM]レポート(1型糖尿病白書)2012の作成

全文をWEBに掲載しています。今年はまだもう少し早く発行できるよう頑張ります。

### ○インスリンポンプとカーボカウントのセミナー開催

2012年は7回開催しました。今年も開催していきます。

### ○1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart1~4の配布

パート3(災害対応編)を増刷し、累計で34,000冊の発行となりました。WEBに申し込みフォームも設けていますのでご活用ください。

### ○1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart5の発行

リクエストの多かった「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart5-患者と家族の体験編-」が完成しました。ご注文をお待ちしています。

### ○祖父母向けマニュアルの作成

患者の祖父母向けのパンフレットをWEBにも掲載しています。

### ○JDRF(米国の1型糖尿病研究財団)調査

井上理事長と大村専務理事が現地を訪問しまし

## 印刷物の発注をとおして 社会貢献を行うご提案

このたび株式会社エヌワイ企画は認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワークの「2025年に1型糖尿病を“治らない”病気から“治る”病気にする」というミッションに共感し、当社に印刷物を発注いただいた場合、その売り上げの一部を1型糖尿病研究基金に寄付することといたしました。

### 特 徴

これまでの印刷コストで社会貢献活動ができます。

- 通常の印刷費用に寄付額を上乗せするのではなく、当社への発注額の一部を当社が1型糖尿病研究基金に寄付いたしますので、発注者の方々に新たな負担は生じません。
- 発注者の方々のご希望により、
  - ・印刷物に1型糖尿病を治る病気にするという社会貢献活動を行っている旨のロゴマーク等を表示いたします。
  - ・日本IDDMネットワークのWEB等で、この取り組みを周知していただきます。

### 印刷物の実績

- ・佐賀県内の観光パンフレット
- ・1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart1~Part5
- ・1型糖尿病[IDDM]白書
- ・患者の祖父母向けパンフレット等

### お問い合わせ先

株式会社 エヌワイ企画

代表取締役 中村 嘉克

TEL 0952-23-4258 nykikaku@almond.ocn.ne.jp

又は

「治らない」から「治る」へ  
認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク

TEL 0952-20-2062 info@japan-iddm.net



た。内容はWEBに掲載しています。JDRFで学んだことを私たちの活動に活かします。

○ノーモア注射募金活動

「糖尿病の根治」に向けて“ノーモア注射募金”活動を開始しました。マンスリーサポーター（毎月1口2000円の寄付）を募集中です。根治を目指す研究に助成します。

○全国ソフボジウム

東日本大震災により延期していましたが、昨年3月10日（土）11日（日）“1型糖尿病「治らない」から「治る」— 不可能を可能にする —”をテーマに東京で開催しました。内容はWEBにも掲載しています。今年は3月24日（日）に大阪市で開催します。

○プロスポーツとの連携による1型糖尿病の啓発

昨年もプロ野球阪神タイガースの岩田稔投手には甲子園球場での試合に患者を招待していただき、さらに1勝当たり10万円の研究基金へのご寄付を頂戴しました。おかげで、1型糖尿病の認知も深まっています。

○電話やメールによる相談

電話は患者の母でもあり祖母でもある陶山さんと患者である飯田さんに対応してもらっています。

メールは井上理事長と岩永で対応しています。かなり深刻な相談もあり、はやく「治る病気」にしないでほしいと思っています。

○ホームページによる情報発信

階層が深くまだまだ改善の余地があります。引き続き頑張ります。

○会報の発行

現状では年2回が限界。引き続き頑張ります。

○東日本大震災対応記録集の作成

岩手、宮城、福島の被災地を再訪しました。それを踏まえて「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアル Part3 別冊—東日本大震災編— 1型糖尿病 [IDDM] 患者・家族の3. 11」（仮称）として、今年3月11日に発行すべく取り組んでいます。

○1型糖尿病研究基金

1型糖尿病の根治に向けて取り組む研究者や研究団体に対し研究費の助成を行うことにより、治療法の確立を図るのがこの基金です。

2011年1月に立ち上がった「1型糖尿病「治らない」から「治る」— 不可能を可能にする — を応援する100人委員会」は各界の著名人等で89名となりました。今年は、100人委員会の企業版「希望の100社委員会」（仮称）が立ち上がる予定です。

昨年は京都市の患者ご家族からの100万円を筆頭に数十万円単位のご寄付も頂戴し、過去最高額となりました。おかげさまで、基金設立以来初の2年連続となる研究費助成（総額300万円）の公募を開始できます。

こうしたご期待に添えるよう役職員一同、2025年に「治る病気」になるよう努力を続けますので、皆さん一緒に頑張りましょう!!

○認定NPO法人となりました!

昨年8月3日に、全国で初めての所轄庁（都道府県・政令市）認定の“認定NPO法人”となりました。日本IDDMネットワークに寄付された個人の方には税額控除や所得控除が適用され、法人の方には損算入限度額が拡大されます。また、寄付された相続財産は非課税になります。

○事務局運営

井上理事長とのペアだけでは限界でしたが、昨年は、川崎さん、いとうさん、高橋さん、鮫島さんといった強力なメンバーに加わっていただき、活動のレベルアップにつながりました。大村専務理事もエアロビック競技と両立しながらたいへん頑張ってくれました。昨年暮れには第29回全日本エアロビック選手権大会で男子シングル（個人）とトリオ（3人組）で優勝し、MVPを受賞しました。今年も日本代表として頑張りますので、皆さん、応援をよろしく願います!



一般の方・患者様向け

日本イーライリリー医療情報問合せ窓口 リリーアンサーズ

# Lilly Answers

リリーの自己注射用注入器のご使用に関する  
お問合せなどがございましたら、お気軽にお電話ください。

0120-245-970

078-242-3499

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。  
※2 フリーダイヤルでの接続が出来ない場合、このお電話番号にお掛けください。尚、通話料はお客様負担となります。

0:00	8:45	22:00	24:00
月	水	金	日
音声ガイダンスによる対応	オペレーターによる対応	音声ガイダンスによる対応	音声ガイダンスによる対応

製品に関するお問合せも受け付けております。 月曜日から金曜日 8:45~17:30

## リリーの サポートプログラム

必要なとき、  
必要な情報を—。




一般の方・患者様向け

糖尿病情報提供サイト

## Diabetes.co.jp

www.diabetes.co.jp

糖尿病情報提供サイトDiabetes.co.jpは患者さんとご家族を応援する情報を多数ご用意しております。

**日本イーライリリー株式会社**  
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

INS-A026 (R3)  
2008年8月作成

## 私たちのサポーター ■ 企業編 ■

### 1 型糖尿病の療養からすい島移植までの 頼もしいパートナー

#### ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

ようやく秋らしくなってきた昨年 11 月、久しぶりに私たちのサポーター企業の訪問取材を行いました。今回の訪問先は血糖自己測定機器（以下、SMBG 機器）の「アキュチェック」ブランドで皆さんお馴染みのロシュ・ダイアグノスティクス株式会社（以下、ロシュ社）さんです。

当日ご対応いただいたのは DC 事業部長の是永陽一さんと同事業部マーケティング部で SMBG 機器担当の加賀洋さんです。ロシュ社さんはスイスに本社を置くヘルスケア企業であるロシュグループの診断薬事業部門の日本法人です。ロシュグループは、主に検査や診断に用いられる診断薬事業部門と病気の治療に用いられる医薬品事業部門があり、診断薬事業部門で開発中の検査法を新しい「治療薬」の開発に役立てるなど、両部門の相乗効果も大きいとのこと。是永さんは「この両事業がうまく協調することで、最終的には個々の患者さんに対応した個別化医療を提供することを目指しています。」と強調されていました。

さて、ロシュ社さんについては SMBG 機器で皆さんもおなじみだと思いますが、実はそれ以外の分野でも 1 型糖尿病にはとても関わり深い企業なのです。まずグローバルには「インスリンポンプ」の大手メーカーです。最新の製品では SMBG 機器がポンプの無線の操作調節器の役目も果たし、測定した血糖値データに基づいた適切な追加インスリン量を無線でポンプ側に伝えられるという先進的インスリンポンプ製品もあるようです。まだ、日本ではポンプ事業を展開されていませんが、私たち患者・家族としては早く日本市場に参入していただき、患者の選択肢が増えることを期待したいと思います。

そしてもう一つ、これはあまりご存知ない方が多いかと思いますが、1 型糖尿病の根治療法の候補「すい島移植」に用いられる試薬で、ドナーから提供されたすい臓から「すい島」を分離する酵素薬を作られています。この試薬

が世界中のほとんどのすい島移植の現場で使われているのです。日本でも最近すい島移植の臨床研究（高度医療）が再開し、今後ロシュ社さんの酵素薬のお世話になる機会が出てくるでしょう。

当日は昨年 11 月 1 日に発売された SMBG 機器の新製品「アキュチェックモバイル」について加賀さんにお聞きしました。この製品はヨーロッパ、オーストラリア等の患者さんからアンケートを実施し、大幅な製品改良を行った結果、簡単に使用できる革新的な血糖測定器に仕上げたとのこと。

大きな特徴は血糖測定に必要な動作の大半を自動化し、ほとんどの操作を片手で行うことができるということです。さらに、測定器、穿刺器具、試験紙の全てを一体化し、廃棄物も出ず、携帯電話のようなデザインとすることで、外出先でも、他人の目を気にせず血糖測定ができるということです。

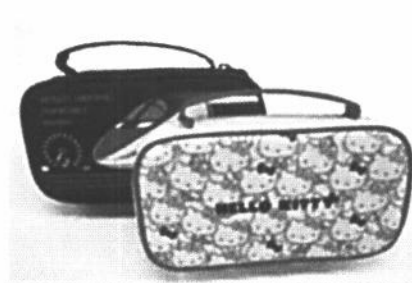


アキュチェックモバイル外観

具体的には、専用のテープカセットを測定器にセットすることで、50 回分の測定が可能となり、測定の度に 1 回 1 回試験紙をセットする必要がな

く、使用後、血液の付着した試験紙はカセット内に再び収納されるので廃棄物も出ません。穿刺器具は、6 本の針を内蔵したドラム式穿刺針で、廃棄時も針はドラム内に収納されます。さらにサポート機能として、機器の操作ガイドは、イラストと日本語（ひらがな、漢字）を用い、測定値は最大 2000 回分を自動記録され、USB コネクタでパソコンとの接続により自動的に測定結果がグラフ化されるというすぐれモノです。

加賀さんは「特に頻回に血糖測定を行う 1 型糖尿病患者さんには、アキュチェックモバイルの革新性を実感していただけたと思います。日々の血糖測定作業の負担軽減に少しでも貢献できればうれしく思います。」とおっしゃっていました。



キティ・新幹線ポーチの外観

最後にロシュ社さんについて忘れていけないのはインスリン注入器や SMBG 機器を収納ポーチの「キティ & 新幹線ポーチ」です。これは 2006 年に当時の小川社長さんたちのご厚意で、特に小さな子どもたちが毎日の命をつないでいる大切な機器類をコンパクトに収納し、いざというときにもすぐ持ち出せるようにすることと、かわいらしい図柄のポーチにすることで、毎回の痛みを少しでも減らしてあげたいとの思いでキティちゃんのサンリオさんのご協力も得て、製造し、私たちに寄贈していただきました。それを私たちが全国の患者・家族の皆さんに配布させていただいております。このポーチによりどれだけの患者・家族の気持ちが和らいだことでしょうか。この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

全国の患者・家族のために今後とも大いに期待しています!!



## 新メンバーの抱負

日本IDDMネットワーク プロデューサー 川崎直人

会員の皆様、はじめまして、昨年7月より、プロデューサーに就任させて頂きました、川崎直人です。私は、ファンドレイジング（寄付活動）を中心に活動を行っています。

日本IDDMネットワークとの出会いは、約1年半前に長男が2歳8か月で1型糖尿病を発症したことがきっかけでした。入院約1週間後に、看護師さんが、私たち夫婦のもとに来られ、「1型糖尿病の患者と家族を支援している団体があるから、一度ホームページを見てください。」「お父さん、お母さん、息子さんの将来に希望を持ってくださいね」と励まされ、1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルパート3－災害対応編－とパンフレットを頂きました。その後、パンフレットの「1型糖尿病患者のおじいちゃん、おばあちゃんへ」を一読した私と妻の溢れる涙は、忘れることができません。私たち家族を生きる希望へと導く、ひとすじの光が見えた瞬間でした。

その後、私は、日本IDDMネットワークの活動に参加することを決意し、昨年5月に佐賀の事務局を訪問、岩永事務局長とお会いしました。会談の中で、患者、家族への熱い思いと、様々な活動内容をお聞きし、2025年の根治を目指して、少しでも貢献できればとの思いで、活動参加をお伝えしました。

私の、日本IDDMネットワークでの主な活動は、本業である「企業支援コンサルタント」としての経験を活かして、企業との連携に特化した、ファンドレイジング（寄付活動）です。

昨年8月より、既存のファンドレイジングメニューである、1型糖

尿病研究基金支援自動販売機の設置強化に向けた、普及活動をスタートし、地元の福井県を中心に、企業、個人の方々へのPR活動を実施、その結果、少しずつではありますが設置台数も増加しております。

また、昨年10月、この支援自販機の普及活動と私が運営をしている糖尿病患者さまを対象とした自己管理サイト（ディエムアイランド）を新聞社に取り上げて頂き、その後、テレビ、ラジオなどに出演したことも追い風となり、支援自販機の詳細確認、日本IDDMネットワークへの寄付方法の問い合わせなど、企業、個人の方から、ご連絡を頂戴し、支援の輪が、全国へと広がっていることを実感しています。

今年は、年末までに、支援自販機合計100台設置を必達目標に掲げ、取り組んで参りますので、関係各位の皆さま、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

また、その他の活動として、チャリティーコンサート、発症間もない患者さまを救うためのプロジェクト、企業との具体的な連携など、新しい取り組みも企画中です。

さらに、私の重要な活動として、会員の皆さまとの交流の場を持つことです。

患者会のイベント参加や、カーボカウントセミナー、シンポジウム、今後実施予定のイベントなどを通して、患者、家族の皆さまと交流し、日本IDDMネットワークの活動を、より一層身近に感じて頂ければと思っています。

最後に私には夢があります。それは、2025年、それまで毎日続けてきたインスリン補充生活から解放された息子と、献身的に息子を支えてきた妻に「みんなの力で、本当に夢が叶った！おめでとう！



今日までよく頑張ったね」と労をねぎらい、患者、家族の皆さま、1型糖尿病「治らない」から「治る」－“不可能を可能にする”－を掲げた日本IDDMネットワークの根治へ向けたさまざまな活動にご参加、ご協力して下さった関係各位の皆さまとともに、真の喜びを分かち合うことです。

そして、近年、臍島移植をはじめ、再生医療、遺伝子治療などにより、1型糖尿病の根治が、確実に近づいてきました。まさしく夢の実現に向けた、大きな進歩です。

今年は、新メンバーとして、役員の方々との連携と、自己の活動強化を図り、1型糖尿病研究基金につながるファンドレイジング実績の拡大に努めたいと思います。

追伸

私が本業として運営を行っている「ディエムアイランド <http://www.tonyo-sp.com/>」は、血糖値、インスリン量、食事、カーボカウントなどの自己管理機能を搭載した、無料サイトです。どうぞ、日々の暮らしに、お役立てください。

このサイトへのご意見、ご要望もお寄せいただければ幸いです。

## 患者・家族会の取り組み

日本IDDMネットワークでは、地域患者・家族会の活性化のために助成金を交付しています。  
今回は、富山の補食の会の取り組みを紹介します。

### 「小児糖尿病講演会」

特定非営利活動法人補食の会 理事長 西田 均

当会は1型糖尿病患者家族によって平成13年11月に設立され、現在、会員は40家族で構成されています。会の主な活動は、会員家族間での情報交換会・交流会と研修会・勉強会です。また、会員は富山IDDMサマーキャンプの実行委員として、企画と運営に関わっています。最近では、1型糖尿病を理解してもらったための社会活動にも取り組んでいます。



今回、平成22年度に続き、12月9日に富山県民会館において、学校関係者や保健医療関係者、患者家族に対して、標記の講演会を開催しました。テーマは、「小児糖尿病の治療と日常生活の課題」で、講師は多くの治療経験と知識のある かさばら小児科(福井市)院長の笠原善仁先生(前金沢大学教授)です。当日は大雪で交通機関に乱れが生じましたが、72名(学校関係者8名、保険医療関係者8名、患者・家族56人(子供14人))の参加者がありました。講演では、基本的なインスリン使用法から、注射とポンプの違いまで、実際のデータに基づいて納得できるわかりやすい説明が行われました。持続型計測器の使用やiPS細胞による将来の治療についても説明がありました。また、療養では何が大切で、どれが目標なのかについてもお話がありました。質疑応答では、「学校生活を送る上での悩みや必要な支援」などに対して、お答えいただきました。参加者のアンケートでは、学校関係者からは、「患者の生活がわかった」。保健医療関係者からは、「信頼おける頼りになる団体として期待している」などの意見をいただきました。また、患者からは、「知らなかったことがよくわかった」、「ポンプのことが良くわかった」などの意見がありました。この講演会に日本IDDMネットワークからの助成金を使わせていただきました。ここに関係各位に感謝申し上げます。

また、講演会当日の午後に、設立10周年記念交流会を開催しました。交流会にはこれまでお世話になった方々をご招待し、感謝を表するとともに患者家族と親交を深めていただきました。招待者9名を含めて、46名の参加者がありました。プロのマジシャンの手工品を鑑賞したり、サマーキャンプのビデオを見たり、全員でビンゴゲームをして大いに楽しみ、親交を深めました。最後に参加者の健康と今後の当会の活動の充実を誓いました。

## 1型糖尿病[IDDM] お役立ちマニュアル Part5 —患者と家族の体験編— 発刊!

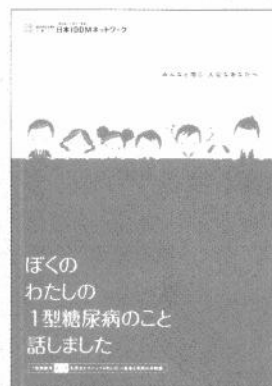
3人の患者さんが中心になって  
約250名の1型糖尿病患者と家族への  
取材をもとに作成しました。

### ご注文方法

メール、郵送又はFAXにて送付先と希望部数をご記入のうえ、下記へお申し込みください。

### 目次

発症間もない患者さんへ  
20年選手の座談会  
仲間から  
患者の知恵袋—病気とうまく付き合う方法  
血糖コントロール  
低血糖  
インスリン補充法—インスリン注射、インスリンポンプ  
食べるということ—カーボカウントの考え方  
食べるということ—摂食障害  
合併症  
患者の知恵袋—快適な生活のために  
学校生活 就職・仕事 恋愛・結婚 妊娠・出産  
成人発症 家族 患者会 主治医  
病気の受け入れ 周りに病気を説明するとき  
情報の受信と発信  
未来へ  
明日に描く夢  
治療の未来  
根治への道



1冊につき2,000円のご寄付をお願いいたします。

認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク

〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央1-8-32 iスクエアビル3階 市民活動プラザ内 NO.42

TEL&FAX 0952-20-2062

info@japan-iddm.net

http://japan-iddm.net/

日本IDDMネットワーク 検索

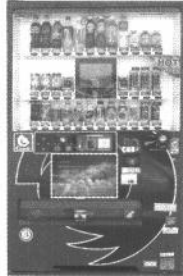
ご連絡いただきましたら、当マニュアルとご寄付の振り込み用紙を送付させていただきます。ホームページからもご注文を承っております。

## 1型糖尿病－2025年『治らない』から『治る』へ－私たちの挑戦への“参加”のお願い

### 日本 IDDM ネットワーク “応援” メニュー 2025年に1型糖尿病を“治らない”病気から“治る”病気にするための研究費の助成に活用いたします。

#### 〔1 型糖尿病支援飲料自動販売機〕

コカ・コーラグループ各社、株式会社伊藤園、及び自動販売機設置者のみなさまのご協力により、売上げの一部が1型糖尿病研究基金への寄付になる飲料自販機が全国各地に設置されています。設置場所をご紹介ください！



- ①株式会社エヌワイ企画（佐賀市）&株式会社伊藤園
  - ②匿名希望（千葉市）&株式会社伊藤園
  - ③アボットジャパン株式会社（東京都港区）&東京コカ・コーラボトリング株式会社
  - ④第一繊維工業有限公司（富山市）&北陸コカ・コーラ・ボトリング株式会社
  - ⑤株式会社オーイーシー（大分市）&南九州コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑥匿名希望（広島県福山市）&コカ・コーラウエスト株式会社
  - ⑦めがね会館（福井県鯖江市）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑧めがね会館（福井県鯖江市）&株式会社伊藤園
  - ⑨株式会社稲本製作所（石川県白山市）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑩南条文化会館（福井県南越前町）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑪南条中央公民館（福井県南越前町）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑫南越前町上牧谷区民センター（福井県南越前町）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑬渋谷薬局（福井県小浜市）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑭八峯建設株式会社（福井県おおい町）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑮今庄 365 スキー場（福井県南越前町）&北陸コカ・コーラボトリング株式会社
  - ⑯修林菴（福岡県大川市）&株式会社伊藤園
- 設置に当たっては、100人委員の方々にもご尽力いただいています。

#### 〔ノーモア注射マンスリーサポーター〕

1口2000円（ひと月のインスリン注射費用の概ね半分に相当）が毎月口座から自動引き落としになる寄付です。100人のご協力があれば毎年2、3件の研究費支援が可能になります。  
http://japan-idm.net/donation/  
実績：16名18口（2012年12月末現在）

#### 〔ノーモア注射～希望の本プロジェクト〕

ご家庭や会社などで不要になった本をご提供ください。例えば、単行本が20,000冊集まったら（1冊50円の場合）新しい治療法の開発が可能になります。  
http://japan-idm.net/book\_pjct/  
実績：6,669冊、119,664円（2012年12月末現在）

#### 〔書き損じはがきプロジェクト〕

ご家庭の書き損じ・未使用のハガキ（額面の記載のある未投かんのハガキです）を集めています。  
http://japan-idm.net/p-postcard-project/  
実績：1,377枚（2012年12月末現在）  
※このうちの一部を換金したところ17,000円となりました。

#### 〔ノーモア注射 2025 プロジェクト〕

JisitGiving Japan（オンライン上のチャリティプログラム）のサイトで寄付を呼びかけるチャレンジを行なっています。  
http://justgiving.jp/c/7960  
実績：大村詠一専務理事 7人から71,000円（2012年12月末現在）  
井上龍夫理事長 5人から36,000円（2012年12月末現在）  
岩永幸三副理事長 4人から16,000円（2012年12月末現在）  
みなさんもこのサイトから寄付を呼びかけるチャレンジを行っていただければありがたいです。

#### 「治る」病気に向けて

昨年2件200万円の研究費助成を行い、累計で7件700万円の研究費助成となりました。平成25年度も3件300万円の研究費助成を行います。皆さまの応援のおかげで2005年の基金創設以来初めて2年連続での助成ができるようになりました。  
研究者が「治る」病気にするための研究に集中できるよう、皆さまのお知り合いにもこうした応援メニューをご紹介ください！

**日本IDDMネットワークは、全国で初めて所轄庁（都道府県・政令市）が認定した「認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）」です。** 認定期間：平成24年8月3日～平成29年8月2日

認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）とは、特定非営利活動法人（NPO法人）のうち、その運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものとして、所轄庁の認定を受けた団体のことです。

**認定NPO法人に寄付した場合に寄付者の方は以下の税制優遇措置が受けられます。**

#### 個人によるご寄付の場合

(1) 寄附金控除（所得控除）の適用を受けるか、  
(2) 寄附金特別控除（税額控除）の適用を受けるか、  
どちらか有利な方を選ぶことができます。

(1) 所得控除の場合

$$\text{納税額} = \left[ \text{課税所得} \left( \begin{array}{l} \text{総収入} - \text{諸控除} \\ \text{（医療控除、配偶者控除、} \\ \text{寄附金控除等）} \end{array} \right) \right] \times \text{税率} \quad (5\sim40\%)$$

$$\text{寄附金控除額} = \left[ \text{その年に認定NPO法人に} \right. \\ \left. \text{寄付した金額の合計額} \right] - 2,000\text{円}$$

※寄付をした合計額は所得金額の40％が限度です。

(2) 税額控除の場合

$$\text{納税額} = \left[ \text{課税所得} \left( \begin{array}{l} \text{総収入} - \text{諸控除} \\ \text{（医療控除、} \\ \text{配偶者控除等）} \end{array} \right) \right] \times \text{税率} \quad (5\sim40\%) - \text{寄附金特別控除}$$

$$\text{寄附金特別控除額} = \left[ \text{その年に認定NPO法人に} \right. \\ \left. \text{寄付した金額の合計額} \right] - 2,000\text{円} \times 40\%$$

※100円未満は切り捨て  
※寄附金の合計額は原則として所得金額の40％が限度です。  
※特別控除額の合計額はその年の所得税額の25％が限度です。

#### 法人によるご寄付の場合

**損金算入限度額の枠が拡大されます。**

一般の寄付金に対する損金算入限度額  
= (資本金等の額×0.25% + 所得金額×2.5%) × 1/4

+

認定NPO法人への寄付金に対する損金算入限度額  
= (資本金等の額×0.375% + 所得金額×6.25%) × 1/2

を損金として算入できます。

**相続人が認定NPO法人に寄付した場合**  
寄付をした相続財産が非課税になります。

〇ご寄付のお振り込み先

区分	みずほ銀行在野支店普通預金	ゆうちょ銀行（郵便局）
振込先	口座名義 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク	
振込先	口座番号 1546986	01780-7-73905
1型糖尿病研究基金への寄付	口座名義 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク	
口座番号	1629393	01710-9-39683

ホームページで詳細をご紹介しています。クレジットカードのご利用も可能です。

# イベント・セミナーの情報

詳しくは Web をご覧ください。 [日本IDDMネットワーク](#) [検索](#)



## 日本IDDMネットワークシンポジウム2013 in 大阪

～根治に向けた最先端研究者とともに想いを語りあう日～

2013年3月24日(日)13時

■出演■(敬称略)

松本 慎一

(国立国際医療研究センター隣島移植プロジェクト・研究アドバイザー)

－バイオ人工膵島－

中神 啓徳

(大阪大学大学院連合小児発達研究科教授)

－DNAワクチン治療－

長船 健二

(京都大学iPS細胞研究所准教授)

－iPS細胞による再生医療－

川村 智行

(大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学講師)

－先進デバイスによるインスリン療法－

ほか

お早めに申し込みください。

### インスリンポンプとカーボカウントのセミナー

○宮崎市 2月3日(日)10時30分～16時30分 JA・AZM本館

#### 事務局長のひとり言

1型糖尿病 (IDDM) お役立ちマニュアルPART5 -患者と家族の体験編-は、実は私の担当。しかし、このままでは私が倒れてしまうと患者さん3人が助け人として登場。約250人も患者、家族、医療者の方々に取材していただき素晴らしいものができあがりました。大感謝！です。

2025年に1型糖尿病を治る病気にするためにはたくさんの研究資金が必要です。ここに2人のファンドレイザーが登場。企業支援コンサルタントの川崎直人さんとフラワーコーディネーター(起業家)のいとうあつこさんです。ご期待ください！

年々求める活動レベルを上げるので、東京と佐賀の事務局メンバーは悲鳴をあげている？ 2025年まで我慢しておつきあいください！

それでは、皆さん今年もよろしくお願ひいたします。

発行元

認定特定非営利活動法人 日本 IDDM ネットワーク

事務局 〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央1-8-32 iスクエアビル3階 市民活動プラザ内 NO.42

<http://japan-idm.net/>

相談電話

080-3549-3691 飯田(いいた)

090-2713-7849 陶山(すやま) 木曜日のみ(第3木曜日は除く)

事務局連絡先

TEL & FAX

0952-20-2062

E-mail

[info@japan-idm.net](mailto:info@japan-idm.net)